

在宅療養専門部会における平成 26 年度の事業実施結果

1 実施済みの事業（【 】内は対応する課題）

(1) 事例検討会・多職種交流会【多職種の連携強化】

在宅療養に関わる医療・介護等の関係者が一堂に会し、事例の検討を通して多職種の相互理解を深めるとともに、検討会後の交流会を通して顔の見える関係づくりを行うことを目的として開催。

地区	日程	会場	参加人数
練馬	7月9日（水）	Coconeri ホール	98名
大泉	7月23日（水）	勤労福祉会館	86名
光が丘	8月20日（水）	Coconeri ホール	103名
石神井	8月29日（金）	石神井公園区民交流センター	69名

(2) コーディネート能力向上研修【多職種の連携強化】

介護支援専門員（ケアマネジャー）の「医師や多職種とのコミュニケーション力（伝える力、必要な情報を聞き出す力）」および「ケアマネジメント力」の向上を図るため研修を実施。

単なる知識付与の研修にとどまらず、実践的なノウハウの習得や、医療職に対するコミュニケーション力の向上、他職種との相互理解の促進をねらいとする。

日程	テーマ	講師	参加人数
12月10日 （水）	退院時（退院前カンファレンスを含む）におけるケアマネジャーのあり方	病院医師、退院支援看護師、主任ケアマネジャー	53人
12月22日 （月）	日常療養時（サービス担当者会議を含む）におけるケアマネジャーのあり方	在宅医、薬剤師、主任ケアマネジャー	51人
1月21日 （水）	終末期を支えるケアマネジャーのあり方	病院医師、在宅医、訪問看護師、主任ケアマネジャー	42人

※ 受講対象者は実務経験2年程度のケアマネジャー

※ 1回の研修時間は2.5時間

※ 講義、グループディスカッション、意見交換により構成（各回共通）

(3) 訪問看護出前講座・同行研修【サービス提供体制の充実】

区内病院のスタッフが訪問看護をはじめとした在宅療養について理解を深め、在宅スタッフとの連携をより円滑なものとするを目的として、訪問看護師による出前講座と、訪問看護への同行研修を実施。

医療機関名	種別	日程、協力訪問看護事業所
浩生会スズキ病院	出前	10月14日 桜台訪問看護ステーション、サンスロープ訪問看護ステーション、ジャパンケア中村橋
	同行	10月17日、20日、22日、23日、24日、27日、28日 桜台訪問看護ステーション、サンスロープ訪問看護ステーション、ジャパンケア中村橋
島村記念病院	出前	10月9日 恵光訪問看護ステーション
	同行	10月14日、21日、28日、11月4日、11日 あすなろ訪問看護ステーション
練馬光が丘病院	出前	10月21日 光が丘訪問看護ステーション、訪問看護ステーションつくしんぼ城北公園、城北訪問看護ステーション
順天堂大学練馬病院	出前	10月30日 恵光訪問看護ステーション

(4) 後方支援病床の確保（在宅医療連携コーディネート事業）

【サービス提供体制の充実】

体調の変化などのため一時的な入院治療が必要と主治医が判断した患者について、区内病院・有床診療所（11 医療機関）にすみやかに入院することができる仕組みづくりを行い、患者・家族の不安や主治医の負担の軽減を図る。

- ・ 事業実施主体 練馬区医師会

※ 主治医と医療機関のコーディネートは練馬区医師会医療連携センターが実施

- ・ 受入実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
件数	4件	5件	11件	19件	14件	13件	10件	10件	12件	98件

(5) 在宅療養シンポジウム【区民への啓発・家族の支援】

区民の在宅療養に対する理解の促進を目的として、在宅療養シンポジウム「在宅で看取るといふこと」を開催。

- ・ 日程 平成 26 年 10 月 18 日（土）午後 2 時～午後 4 時
- ・ 会場 練馬区役所アトリウム地下多目的会議室
- ・ 講師 桜新町アーバンクリニック院長 遠矢純一郎
患者家族対話推進協会代表理事 宮崎詩子
- ・ 参加人数 81 名

(6) 情報紙「在宅で生きる」の発行【区民への啓発・家族の支援】

区民および医療・介護関係者を対象として、在宅療養に対する一層の理解促進を目的として、協議会の検討状況や具体的な取組の実施状況など、在宅療養に関する情報を定期的に発信する情報紙「在宅で生きる」を発行（平成 26 年 7 月から毎月発行）。

2 検討中の事業

(1) 多職種連携研修の実施【多職種の連携強化】

医療・介護関係者間の連携の強化や在宅医療参入の動機づけを目的とした各種研修を企画・実施する。

(2) 医療・介護・家族の情報共有連絡ツールの確立【多職種の連携強化】

在宅療養における ICT（情報通信技術）を活用した情報共有について、その安全性や有効性、必要な機能等を検証する。

(3) 在宅療養区民啓発ガイドブックの発行【区民への啓発・家族の支援】

在宅療養に対する理解の促進を目的としてガイドブックを発行する。

現在療養中の方に役立つ情報のほか、予防的な情報を盛り込むことで、今後療養生活を送ることとなったときに、在宅療養を選択肢のひとつとして認識することができるガイドブックとする。

骨子案については別紙 1 参照。

※ 発行スケジュール

年度	月	作業概要
26	～3月末	レイアウトおよびテキスト内容の調整
27	4月末	専門部会に進捗状況を報告
	4月～5月	印刷業者を入れてレイアウト等の調整

	6月～8月	各関係機関への校正依頼
	8月	専門部会に最終版を提示 ⇒ 最終版の確定
	9月	印刷
	10月	発行